

抗酸化機能を標的とした医療、生活指導

Role of Antioxidants in Medicine and Daily Life

近藤 元治

京都府立医科大学名誉教授、医療法人恒昭会藍野病院院長



It is well known that free radical species induce harmful events to living things and therefore so-called antioxidants are used to prevent diseases and to support good human lives. On the other hand, free radicals are often used as therapeutic agents against cancer. In this paper, the author will make explanation how free radicals play a role in human health care.

活性酸素種は人間の生活環境に数多く存在し、文明の進歩に伴い生じている環境破壊にも手を貸している。これらが人間の健康を阻害し、生活習慣病を助長しつつあるのは間違いのない事実で、そのため抗酸化機能を持つ健康食品やサプリメントに人々の関心が寄せられてきている。現実にはそれらがどれほどの効果を見せているのかの評価は不明のままであるけれども、いくつかの基礎的研究を背景に、ビジネスとして成長しつつあるのは事実である。

医薬の分野でも、各種の病態の解明に活性酸素種の関与が明らかになり、かつてはビタミンCやEが中心であった抗酸化剤が守備範囲を広げている。中でも虚血再灌流傷害という事象は、酸素の有用性を植え付けられてきた臨床医にとって驚きをもって迎えられ、活性酸素と疾患の関連を認識させるのに大いに役立っている。

こうした活性酸素が悪玉であるという考え方に対して、それを利用して病気の治療を行うという逆の発想が生まれている。抗がん剤の多くは体内でラジカルに変身して癌細胞に攻撃をかけるし、癌組織の内部に虚血再灌流傷害を惹起させることで癌治療を行うというアイディアも生まれてきている。

日常の臨床のなかで、活性酸素種がどのような意義を持ち、それを標的とすることの可否を含めて、今後の展望をお話しさせていただく予定である。